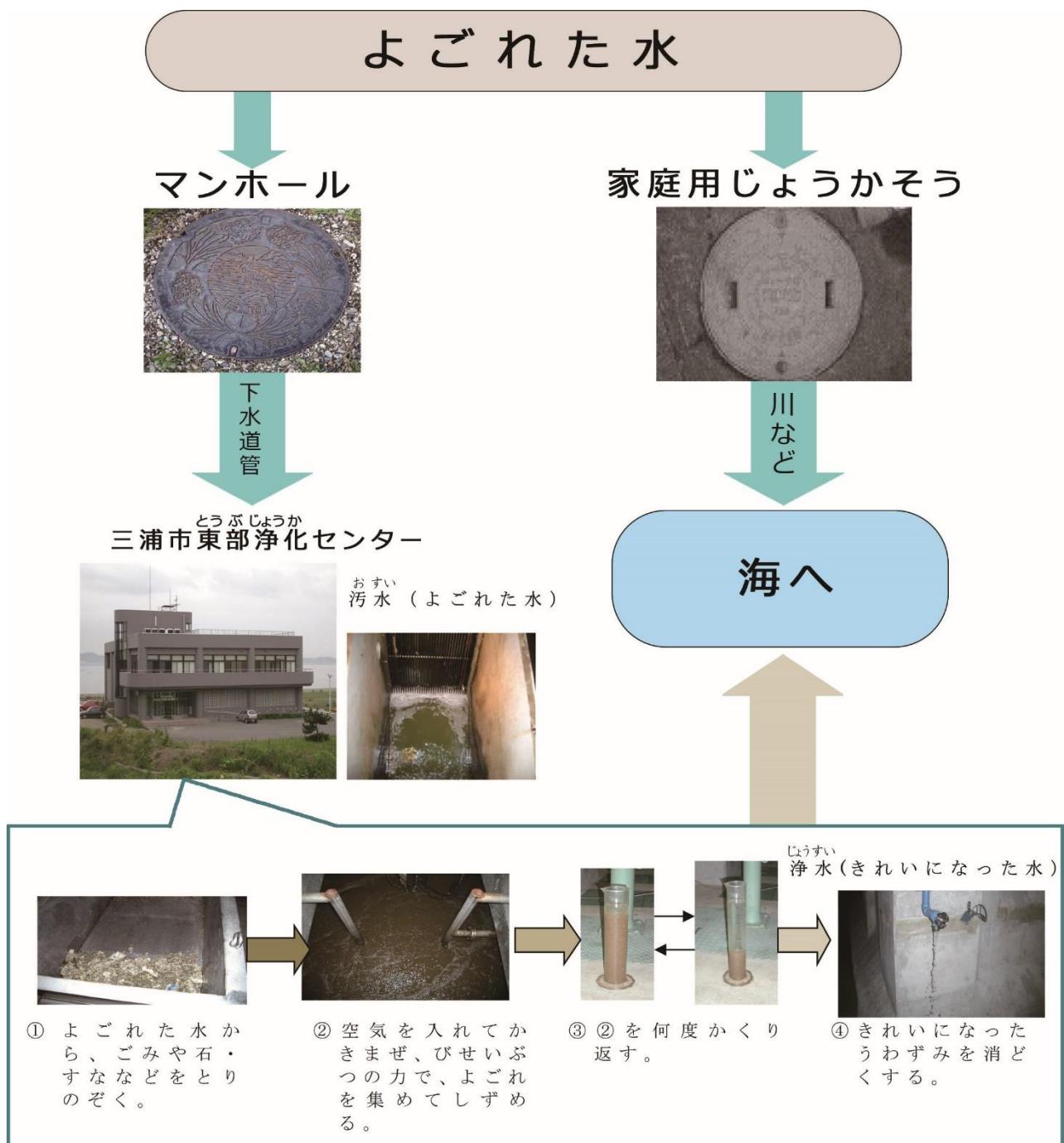


(2) わたしたちのくらしと下水道

わたしたちが、家庭や学校で使ったよごれた水は、どこへいくのでしょうか。

◆よごれた水のゆくえ



三浦市の一^こ^う^き部では、「公共下水道」が、整びされてい^{きょう}^{すい}^{ざい}ます。そこでは、各家庭のよごれた水を下水道管で集め^めて、まとめてしょりし、きれいな水にして海に流してい^{すい}^{かん}ます。今も下水道の工事は進められています。

これまで学習してきたように、市では、市民の健康な^{くら}^しを願って、ごみやよごれた水のしょりに努力して^{めいり}いますが、それには、たくさんのお金がかかるなど、多くの問題があります。市では、それらを含めた環境の問題の解決に向けて話し合いをもっています。そこには、中学生も^{さんか}参加して「『町をきれいに』みんなで守る^{じょう}^{れい}条例」を作り、市の人々にアピールしています。

みなさんも、自分でできることを考えてみましょう。



(3) わたしたちのくらしと水

わたしたちは、毎日のくらしの中で、なにげなく水を使っています。

しかし、雨が少ない日が長い間続いたり、^{つづ}地震などの災害^{さいがい}が起きたりすると、水がたりなくなって、毎日の生活が不自由になってしまいます。

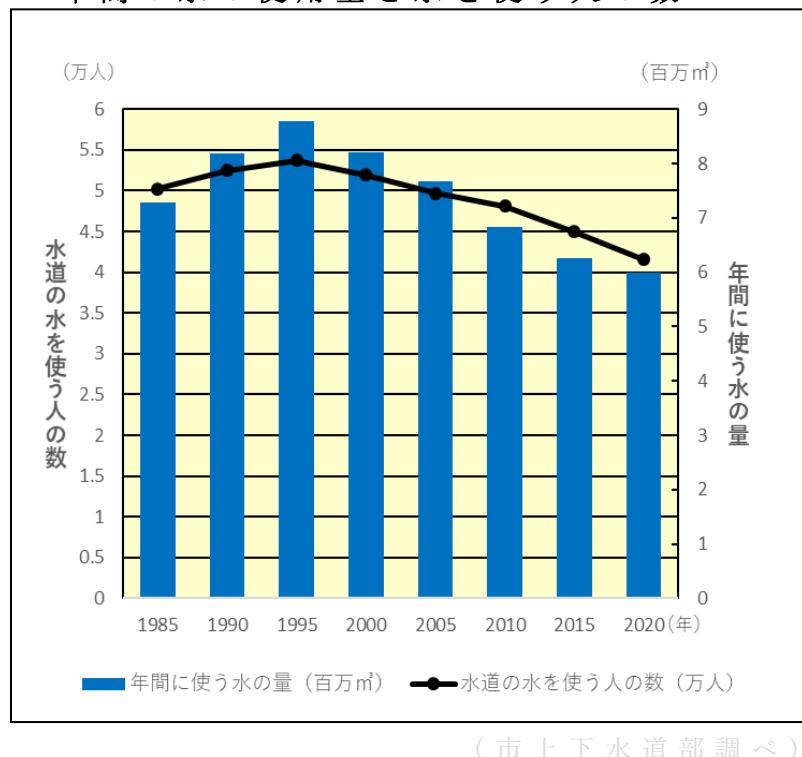
そこで、水道の水がわたしたちの家庭^{かてい}へ送られてくるまでの仕組みや、生活と水とのかかわりについて、調べてみましょう。

◆ 水の使われ方

水は、家庭^{かてい}、学校、工場などいろいろなところで使われています。家庭^{かてい}や学校での水の使われ方を調べてみましょう。

家での水の使われ方

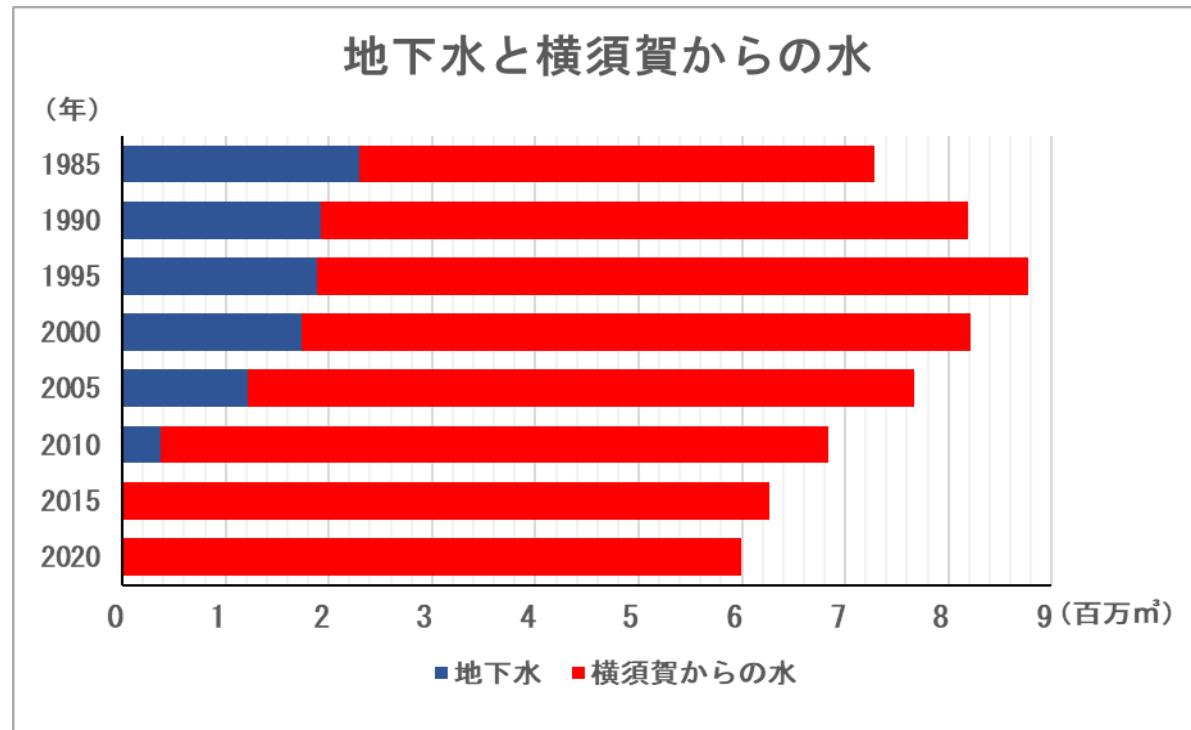
一年間の水の使用量と水を使う人の数



（編集委員作成）

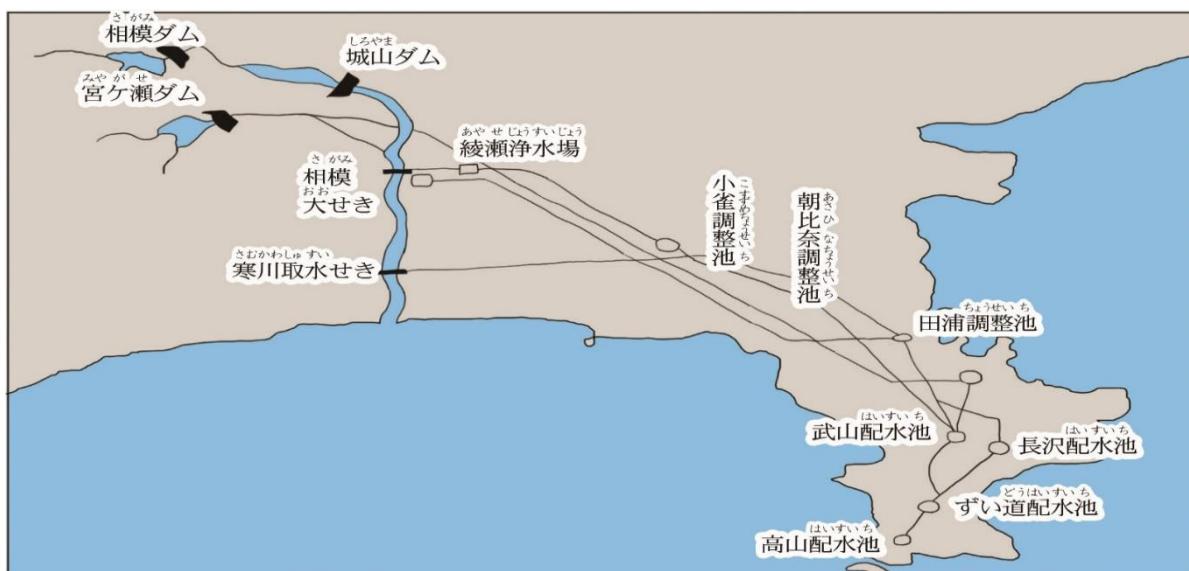
水道の水がとどくまで

三浦市は近くに大きな川がありません。また、2012年3月末に井戸水源からの取水を休止したため、すべての水を横須賀市から買っています。それでは、その水はいったいどこからどのようにして、わたしたちの家にとどくのでしょうか。

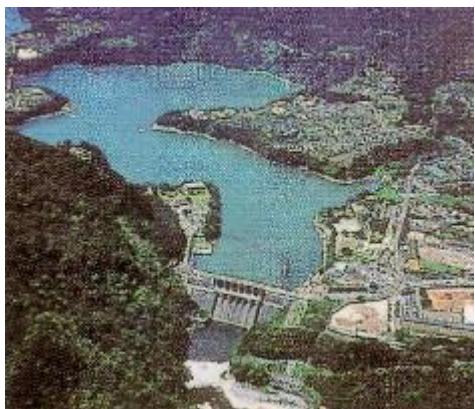


(市上下水道部調べ)

川から三浦市にとどくまで



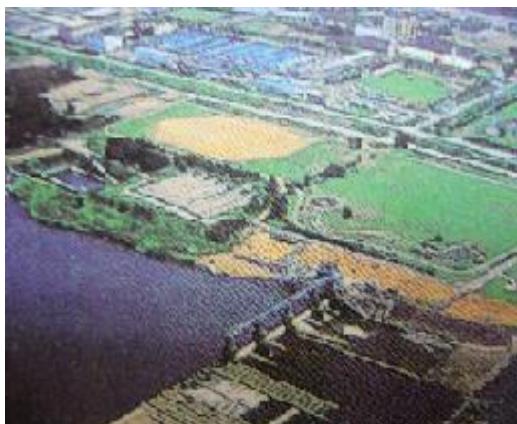
(編集委員作成)



つくいこしろやま
津久井湖と城山ダム



さがみ
相模大ぜき



さむかわしうすい
寒川取水ぜき



こすずめじょうすいじょう
小雀浄水場



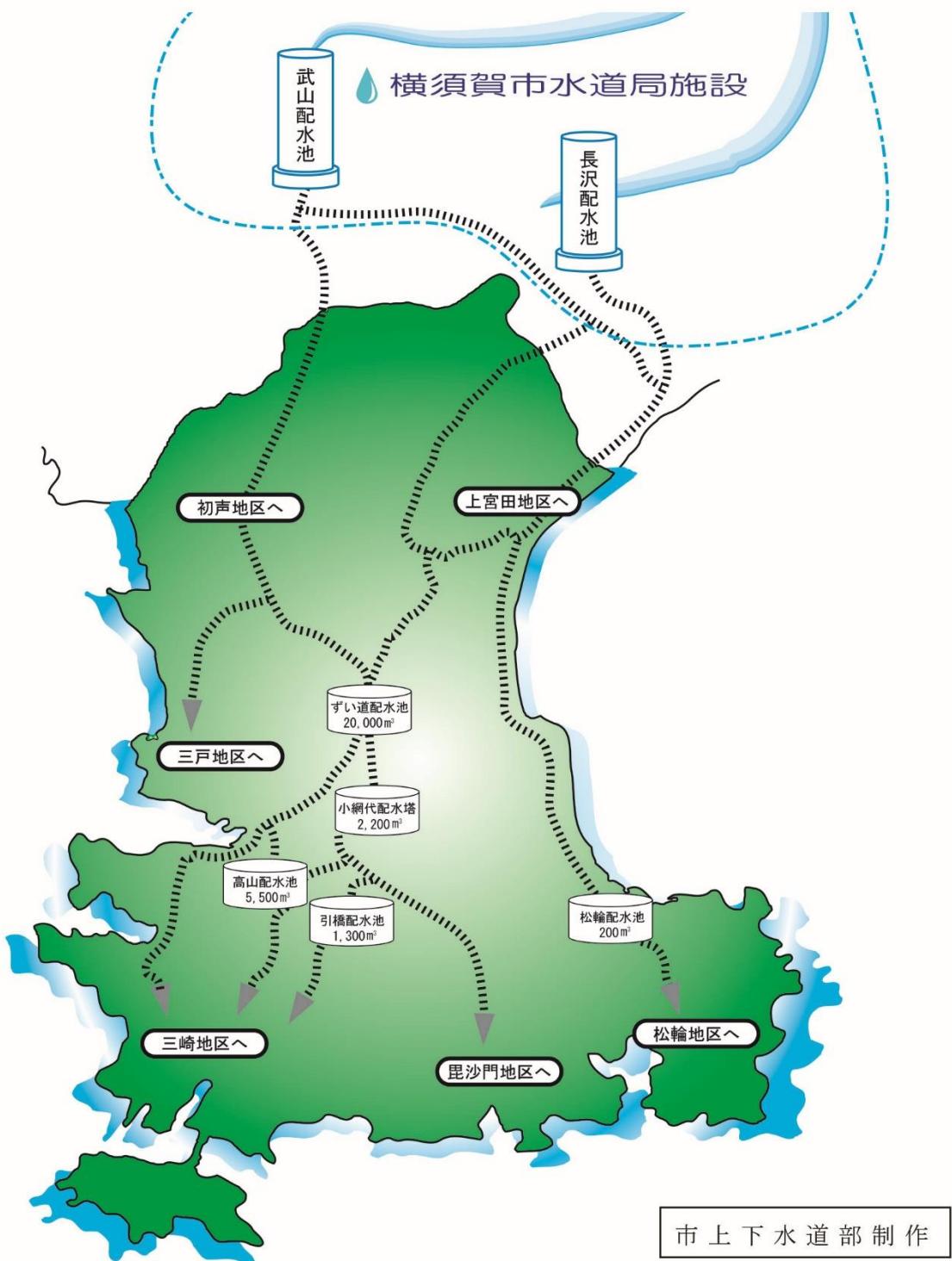
どうはいすい
ずい道配水池



こあじろはいすいとう
小網代配水塔

写真：三浦市上下水道部 横須賀市上下水道局 横浜市水道局

地下水源 すいげん 配水池 はいすいち おもと 主な水道



三浦市には、南下浦町上宮田などに 12 の井戸水源が
あります。2012 年 3 月末にて全て取水を休止しました。

◆水道のひろがり

三浦市では、昔から、水にはたいへん苦勞してきました。市の水道がひかれる前は共同井戸がつくられていましたが、水質も悪く、量も多くありませんでした。

1934年（昭和9）、初声村で見つかった地下水を利用したのが、水道の始まりでした。

その後、市内の地下水を利用したり、横須賀市から水を買ったりして、水道を使える地域が広がっていきました。

三浦市の水道の発展



こうえんぼうすいげんち
高円坊水源地

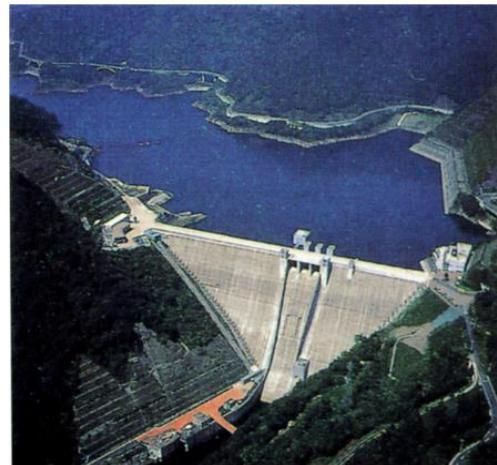
（編集委員撮影）

年	おもなできごと
1935	三崎地区に町営上水道がひかれた
1952	横須賀市から受水開始 ($1000\text{m}^3/\text{日}$)
1956	三戸地区にかんい水道がひかれた
1958	松輪地区にかんい水道がひかれた
1961	菊名・上宮田地区、毘沙門地区にかんい水道がひかれた
1962	高山配水池ができた
1963	三浦市—横須賀市間に送水管がひかれた（高山—武山）
1965	かんい水道をやめ、上水道にとうごうした
1966	上宮田—津久井間に配水管をせつぞくした
1972	ずい道配水池ができた
	ずい道—横須賀市間に送水管がひかれた（小綱代—津久井）
1973	小綱代配水塔ができた
1975	集中せいぎょ方式を取り入れた
1979	宮ヶ瀬ダムの計画に参加 ($29900\text{m}^3/\text{日}$)
2001	宮ヶ瀬ダムが完成

◆水のかくほ

人口がふえ、生活が向上して
くると、ますます水が必要にな
ります。

そこで、水をかくほするため
に県と横浜市、川崎市、横須賀
市で水道企業団をつくり、国と
共同で中津川上流に宮ヶ瀬ダム
をけんせつしました。三浦市も



宮ヶ瀬ダム

(横浜市水道局提供)

その計画に参加し、将来に必要な水を確保しました。
また、海の水を真水に変えて飲み水をつくる研究や、
一度使われた水をきれいにして工場などでつかえるよ
うな工夫もされています。さらに、川の上流に森林
を育てるにも力を入れています。森林は、雨水を
たくわえるはたらきをする「自然のダム」だからです。

市の上下水道部の人の話

水道の水が、いつでもどこでもだれもが安心して飲め
るように、毎日水もれの点検や水質の検査をしています。
また、水がたりなくならないようにするために、ダムや
浄水場をつくったり、水道管の取り付けをしたりして
います。ダムをつくるときには、そこに住んでいた人に、
引っ越ししてもらわなければなりませんし、家や学校も
湖の底にしづんでしまいます。

このように、飲み水のために、たくさんの人たちの
協力が必要であり、さらにたくさんのお金と長い年月が
かかっています。だから、みなさんも水をたいせつに使
ってください。

(4) わたしたちのくらしと電気やガス

電気やガスも、水と同じように毎日の生活になくてはならないものになっています。電気やガスがわたしたちの家庭へ送られてくるまでの仕組みや、生活とのかかわりあいについて、調べてみましょう。

◆電気

電気は、わたしたちの生活の中でどのように使われているのかを調べてみましょう。

三浦市に送られてくる電気は、主に電力会社の火力発電所で作られています。火力発電所では、どのようにして電気を作っているのでしょうか。そして、どのようにして、わたしたちの家にとどくのでしょうか。



よこはまかりょくはつでんじょ
横浜火力発電所 (東京電力提供)



そうでんせん
送電線 (編集委員撮影)



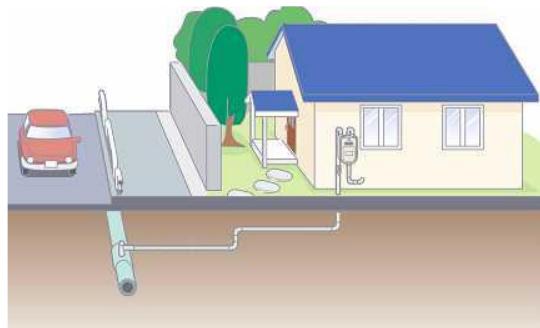
へんでんじょ
三崎変電所 (編集委員撮影)



ふうりょくはつでん
宮川の風力発電 (編集委員撮影)

◆ ガス

ガスには都市ガスとプロパンガスがあります。都市ガスは地下に埋めてあるパイプを通して工場から運ばれます。プロパンガスはガスをつめたボンベでとどけられます。ガスの原料は世界各地から輸入されている天然ガスです。



都市ガス（東京ガス作成）



液化天然ガスのタンカー



プロパンガス（東京ガス作成）

三浦市内の都市ガス地図



東京ガス作成